

目標設定について

持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみ減量に関する具体的な数値目標を掲げ、市民・事業者とその目標を共有し、達成状況を確認・評価しながら、ごみ減量・リサイクルの取組みを進めます。

1 目標指標の設定

- ・減量・リサイクルに向けて引き続き市民・事業者の理解、協力を得ながら取組む必要があるため、市民・事業者の取組みにつながりやすい指標を設定します。
- ・クリーンセンター第1工場の廃止と新ごみ処理施設の稼働に向けて、進捗を評価しやすい指標を設定します。
- ・目標指標は、表1のとおり設定します。

表1 目標指標と対象ごみの内容

区分	指標と設定理由		対象となるごみ
主要目標	焼却対象ごみ量 (t/年)	○クリーンセンター第1工場廃止と新ごみ処理施設稼働に向けて、焼却処理されるごみの減量を評価するため、主要目標として設定します。	クリーンセンター第1工場・第2工場 で焼却処理されるごみの量 (家庭から排出される燃やすごみ、事業系ごみ、持ち込みごみ、資源リサイクルセンターから発生する破砕・選別残さ)
個別目標	1人1日あたりの燃やすごみ量 (g/人・日)	○「燃やすごみ」は、ほぼすべての市民が毎日排出しており、その量をイメージしやすいことから、市民のごみ減量・リサイクルの取組み状況を表す指標として設定します。 ○人口動向に左右されず市民1人1人の取組み状況を把握するため、1人1日あたりの排出量を指標とします。	家庭からの燃やすごみの排出量
	事業系ごみ量 (t/年)	○事業者のごみ減量・リサイクルの取組み状況を表す指標として設定します。 ○事業所数は景気等の影響を受けやすく、変動が大きいこと、規模や業種によって排出量に顕著な差があることなどから、1事業所1日あたりではなく、総量を指標とします。	クリーンセンターに搬入される事業系ごみの総量
参考指標	1人1日あたりの家庭系ごみ量 (g/人・日)	○主要目標達成に向けて家庭から排出されるごみ全体の減量の取組み状況を表す指標として、「1人1日あたりの家庭系ごみの量」を参考指標として把握します。	集団回収量、資源ごみ等を除いた家庭からの一般廃棄物の排出量 (燃やすごみ、金属製小型ごみ、大型ごみ、臨時ごみ、持ち込みごみ) ※第4次循環型社会形成推進基本計画と同定義

2 減量目標設定の考え方

(1) 基本的な考え方

- 令和8年度以降のクリーンセンター第2工場1施設体制での焼却処理及び令和13年度稼働予定の新ごみ処理施設のコンパクト化を目指し、より一層のごみ減量化に向けた数値目標を設定します。
- 燃やすごみ及び事業系ごみのいずれについても、組成調査結果から、食品ロス、プラスチックや紙資源などについて、削減の余地があることが分かっています。
- そこで、個別目標については、発生抑制や分別排出についての取組みを進めることにより、減量やリサイクルが可能な量を積上げることで設定します。
- そして、個別目標の減量目標等を踏まえ、主要目標である焼却対象ごみ量の減量目標を設定します。

(2) 個別目標の設定

ア 1人1日あたりの燃やすごみ量

(ア) 設定の考え方

- 1人1日あたりの燃やすごみ量の減量目標は、その中に含まれる「生ごみ（食品ロスを含む）」、「プラスチック」の発生抑制と、「紙資源」、「びん・缶・ペットボトル」といった資源物の分別排出の徹底により、減量やリサイクルが可能な量を積上げることで設定します。

(イ) 各組成の削減目標量

- これまでの組成分析結果や市民アンケート結果並びに今後の減量施策の見込みを踏まえた燃やすごみの組成別削減目標量は表2のとおりです。
- 1人1日あたりの燃やすごみ量は、**令和12年度に令和元年度比で47 g/人・日（約10%）削減**することを目標とします。

表2 1人1日あたりの燃やすごみの削減量の内訳

削減対象とする組成	R01 排出量	削減目標量		R12 目標排出量
生ごみ（食品廃棄物）	154 g/人・日	▲23 g/人・日	▲15%	131 g/人・日
うち食品ロス	79 g/人・日	▲19 g/人・日	▲24%	60 g/人・日
紙資源	71 g/人・日	▲15 g/人・日	▲21%	56 g/人・日
プラスチック	87 g/人・日	▲6 g/人・日	▲7%	81 g/人・日
びん・缶・ペットボトル	6 g/人・日	▲3 g/人・日	▲50%	3 g/人・日
その他	139 g/人・日	—	—	139 g/人・日
合計	457 g/人・日	▲47 g/人・日		410 g/人・日

※組成割合は令和元年度分析結果を使用

①生ごみ（食品ロスを除く）

燃やすごみに含まれる食品ロス以外の生ごみ（75g/人・日）の 4%（4g/人・日）削減 を目指します。

[市民アンケート結果] 今後、生ごみをたい肥化するなどして減らせそう 約9%

⇒今後、生ごみをたい肥化するなどして減らせそうと考えている市民の50%が、水切りやたい肥化など生ごみの減量化を実践することを目指します。

燃やすごみへの排出量 75g /人・日×今後減量に取組めそうな市民9%×さらなる減量を実践する市民50%≒4g削減

[減量の取組み] 市民への周知・啓発活動、生ごみ処理機の普及促進

②食品ロス

燃やすごみに含まれる食品ロス（79g/人・日）の 24%（19g/人・日）削減 を目指します。

[国目標] 家庭系食品ロスを令和12年度までに平成12年度比で半減（平成29年度比で24%削減）

[市民アンケート結果] 今後、食品ロスを減らせそう 約48%

⇒国の目標を踏まえ、24%の削減を目指します。（今後、食品ロスを減らせそうと考えている市民の50%が、食品ロス削減を実践することを目指します。）

燃やすごみへの排出量 79g /人・日×国目標24%≒19g削減

[減量の取組み] 市民への周知・啓発活動、食品ロスダイアリーやフードドライブなど削減行動の促進

③紙資源

燃やすごみに含まれる紙資源（71g/人・日）の 21%（15g/人・日）削減 を目指します。

[市民アンケート結果] 今後、雑がみなどの古紙をまだまだ分別できそう 約42%

⇒今後、雑がみなどの古紙をまだまだ分別できそうと考えている市民の50%が、雑がみを中心に紙資源の分別排出を実践することを目指します。

燃やすごみへの排出量 71g /人・日×今後分別できそうな市民42%×さらなる分別を実践する市民50%≒15g削減

[減量の取組み] 市民への周知・啓発活動、雑がみのわかりやすい分別方法の周知、雑がみ保管袋の配布、資源集団回収運動の活性化、分別ルールが守られていない不適正排出の取残し

④プラスチック

燃やすごみに含まれるプラスチック（87g/人・日）の 7%（6g/人・日）削減 を目指します。

[排出実態] 燃やすごみに含まれるレジ袋 12g/人・日

⇒レジ袋有料化義務化に伴い、レジ袋の削減が一層進むことが見込まれます。レジ袋を始めとする使い捨てプラスチックの削減に関する意識の向上を図り、燃やすごみに排出されるレジ袋の50%の排出抑制を目指します。

燃やすごみへのレジ袋排出量 12g/人・日×さらなる排出抑制を実践する市民50%≒6g削減

[減量の取組み] 市民への周知・啓発活動、事業者との連携によるプラスチックを使わない環境の整備、店頭回収への排出誘導

⑤びん・缶・ペットボトル

燃やすごみに含まれるびん・缶・ペットボトル (6g/人・日) の 50% (3g/人・日) 削減 を目指します。

[市民アンケート結果] びん・缶・ペットボトルを資源として分別している 約 80%以上
⇒現在分別を行っていない市民の 50%が分別排出に取り組むことを目指します。

燃やすごみへの排出量 6g/人・日×さらなる分別を実践する市民 50%≒3g 削減

[減量の取組み] 市民への周知活動、「びん・缶」と「ペットボトル」の分別区分の見直し、分別ルールが守られていない不適正排出の取残し

イ 事業系ごみ量

(ア) 設定の考え方

- ・事業系ごみ量の減量目標は、事業系ごみに混入している「プラスチック類」や「金属類」など産業廃棄物に類するものの適正処理、「紙資源」や「びん・缶・ペットボトル」の分別排出の徹底と、「生ごみ(食品ロスを含む)」の発生抑制・リサイクル推進により、減量やリサイクルが可能な量を積み上げることで設定します。

(イ) 各組成の削減目標量

- ・これまでの組成分析結果や今後の減量施策の見込みを踏まえた事業系ごみの組成別削減目標量は表3のとおりです。
- ・事業系ごみは、令和12年度に令和元年度比で5,113 t (約10%) 削減することを目標とします。

表 3 事業系ごみの削減量の内訳

削減対象とする組成	R01 排出量	削減目標量		R12 目標排出量
資源物				
紙資源	9,272 t			
びん、缶、ペットボトル	2,081 t			
産業廃棄物に類するもの		▲4,417 t	▲ 20%	17,516 t
プラスチック	9,559 t			
金属	294 t			
その他の産廃(ガラス等)	727 t			
生ごみ(食品ロスを含む)	13,912 t	▲ 696 t	▲ 5%	13,216 t
その他	15,288 t	—	—	15,288 t
	51,133 t	▲5,113 t		46,020 t

※組成割合は平成29年度～令和元年度分析結果の平均を使用

①資源物（紙資源、びん・缶・ペットボトル）、産業廃棄物に類するもの（プラスチック類、金属類）

事業系ごみに含まれる資源物と産業廃棄物に類するもの（21,933 t）の 20%（4,417 t）削減 を目指します。

⇒搬入時の展開検査及び事業者への啓発・指導を強化することにより、事業者による適正処理や分別排出の徹底を促進し、事業系ごみに排出される資源物及び産業廃棄物に類するものの20%の削減を目指します。

事業系ごみに排出される資源物及び産業廃棄物に類するもの 21,933 t × 適正処理や分別排出の徹底 20% ≒ 4,417 t 削減

[減量の取組み] 排出事業者への啓発、一定規模以上の事業所による減量計画書の提出義務化、クリーンセンターにおける搬入検査の強化及び不適正搬入への指導の徹底、小規模事業所でも取組みやすい事業系紙資源回収の仕組みの構築、シュレッダー紙や機密文書のリサイクルの促進

②生ごみ（食品ロスを含む）

事業系ごみに含まれる生ごみ（13,912 t）の 5%（696 t）削減 を目指します。

⇒事業系食品ロス削減に取り組む他都市の事例を参考に、事業系ごみに排出される食品廃棄物のうち5%の削減を目指します。

事業系ごみへの排出量 13,912 t × 5%削減 ≒ 696 t 削減

[減量の取組み] 食品関連事業者への啓発、一定規模以上の事業所による減量計画書の提出義務化、食品ロス削減に取り組む飲食店・小売店への支援、食べきり運動の推進

(3) 参考指標（1人1日あたりの家庭系ごみの量）の設定

- ・家庭系ごみの将来推計において、「大型ごみ」、「持ち込みごみ」等は、今後増加する予測となっています。
- ・燃やすごみの排出量の削減とともに、家具等のリユースに関する啓発や持ち込み時の排出者確認のさらなる徹底により、「大型ごみ」、「持ち込みごみ」等の排出量の削減を進めます。
- ・1人1日あたりの家庭系ごみの量については460 g/人・日となり、兵庫県の目標である463 g/人・日を達成することになります。

表 4 1人1日あたりの家庭系ごみの削減の内訳

	実績 (R01年度)	推計値 (R12年度)	目標値 (R12年度)	目標値-実績
1人1日あたりの家庭系ごみ量	500 g/人・日	490 g/人・日	460 g/人・日	▲40 g/人・日 ▲8%
1人1日あたりの燃やすごみ量	457 g/人・日	438 g/人・日	410 g/人・日	▲47 g/人・日 ▲10%
1人1日あたりの その他家庭系ごみ※量	43 g/人・日	52 g/人・日	50 g/人・日	7 g/人・日 16%

※その他家庭系ごみ：「金属製小型ごみ」、「大型ごみ」、「臨時ごみ」、「持ち込みごみ」

(4) 主要目標（焼却対象ごみ量）の設定

・個別目標と参考指標に掲げた家庭系ごみ、事業系ごみの減量を進め、焼却対象ごみ量を令和12年度に令和元年度比で約11%（14,498 t）削減した119,543t/年とすることを主要目標とします。

⇒主要目標の119,543t/年は、「新ごみ処理施設整備基本計画（令和2年3月）」で検討した焼却対象ごみ量（120,505t/年）以下の数値となっています。

3 まとめ

令和12年度に令和元年度比で1人1日あたりの燃やすごみ量及び事業系ごみ量をそれぞれ10%削減し、焼却対象ごみ量を約11%削減することを目標とします。

表5 数値目標（案）

区分	指標	実績 (R01年度)	目標 (R12年度)	削減量
主要目標	焼却対象ごみ量	134,041 t/年	119,543 t/年	14,498 t/年削減
				11%削減
個別目標	1人1日あたりの燃やすごみ量	457 g/人・日	410 g/人・日	47 g/人・日削減
	事業系ごみ量	51,133 t/年	46,020 t/年	10%削減
参考指標	1人1日あたりの家庭系ごみ量	500 g/人・日	460 g/人・日	5,113 t/年削減
				10%削減
参考指標	1人1日あたりの家庭系ごみ量	500 g/人・日	460 g/人・日	40 g/人・日削減
				8%削減

参考：ごみ量の将来推計（再推計）

1 人口の将来推計

令和元年時点での本市の人口実績と兵庫県が市区町別に推計を行った「兵庫県将来推計人口（2015～65年）」（令和元年11月）を、ごみ量の将来予測に用いる将来人口とします。

〈兵庫県将来推計人口の採用理由〉

- ① 「兵庫県将来推計人口」は、年齢別の出生・死亡、転入・転出等を勘案したコーホート法により推計された国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」）の推計値に基づいた推計を行っており、人口増減が一定でない現状においては、トレンド法よりも実態に近い推計となっています。
- ② 「兵庫県将来推計人口」の基となる平成30年3月に公表された社人研推計値は、平成27年国勢調査結果を基に推計した最新の推計を用いており、令和元年時点において実績との乖離が少なくなっています。

表 6 尼崎市の将来人口推計

年	実績 (10月1日推計人口)	推計※		
		尼崎市人口 ビジョン	国立社会保障・人口問題研 究所将来推計 2018	兵庫県 将来推計
H27 (2015)	452,563		452,563	452,563
H28 (2016)	451,708		450,920	452,058
H29 (2017)	451,000		449,278	451,553
H30 (2018)	451,072	444,722	447,635	451,048
R1 (2019)	451,475	438,445	445,993	450,543
R2 (2020)		432,167	444,350	450,038
R3 (2021)		429,716	442,126	448,857
R4 (2022)		427,265	439,902	447,676
R5 (2023)		424,814	437,677	446,496
R6 (2024)		422,363	435,453	445,315
R7 (2025)		419,912	433,229	444,134
R8 (2026)		417,230	430,604	442,488
R9 (2027)		414,547	427,978	440,842
R10 (2028)		411,865	425,353	439,197
R11 (2029)		409,182	422,727	437,551
R12 (2030)		406,500	420,102	435,905
R13 (2031)		403,980	417,195	433,925
R14 (2032)		401,460	414,289	431,944
R15 (2033)		398,941	411,382	429,964
R16 (2034)		396,421	408,476	427,983
R17 (2035)		393,901	405,569	426,003
R18 (2036)		391,701	402,584	423,957
R19 (2037)		389,501	399,598	421,911
R20 (2038)		387,300	396,613	419,865
R21 (2039)		385,100	393,627	417,819
R22 (2040)		382,900	390,642	415,773
推計の基となるデータ		平成22年国勢調査	平成27年国勢調査	平成27年国勢調査
推計値の公表年		平成27年10月	平成30年3月	令和元年11月

※「尼崎市人口ビジョン」、「国立社会保障・人口問題研究所将来推計2018」、「兵庫県将来推計」の各推計は、5年毎の値のみであるため、その間の値は直線補間した値である。

2 ごみの将来推計量

(1) ごみの将来推計量の考え方

将来のごみの発生量について、次のとおり推計を行いました。

ア 家庭系ごみ

- ・平成 25 年度から令和元年度までの 7 年間の 1 人 1 日あたりの排出量（原単位）実績を基に推定式を当てはめ、極端な変化がない推計式のうち決定係数が最も高いものを選択し、原単位としました。なお、平成 30 年度実績は、台風第 21 号によるごみ量増加分を補正しています。
- ・この原単位に、将来人口と年間日数を乗じることによって、ごみの将来推計量を算出しました。

イ 事業系ごみ

- ・事業系ごみは経済状況に左右されることから予測が難しく、また、排出量が横ばい傾向にある現状を踏まえ、平成 30 年度の排出量が今後も横ばいで推移するものとして推計しました。

(2) ごみの将来推計量

ア ごみの排出量

ごみの排出量は、令和 7 年度には令和元年度比で約 3.0%、令和 12 年度には約 4.8%減少すると推計されます。

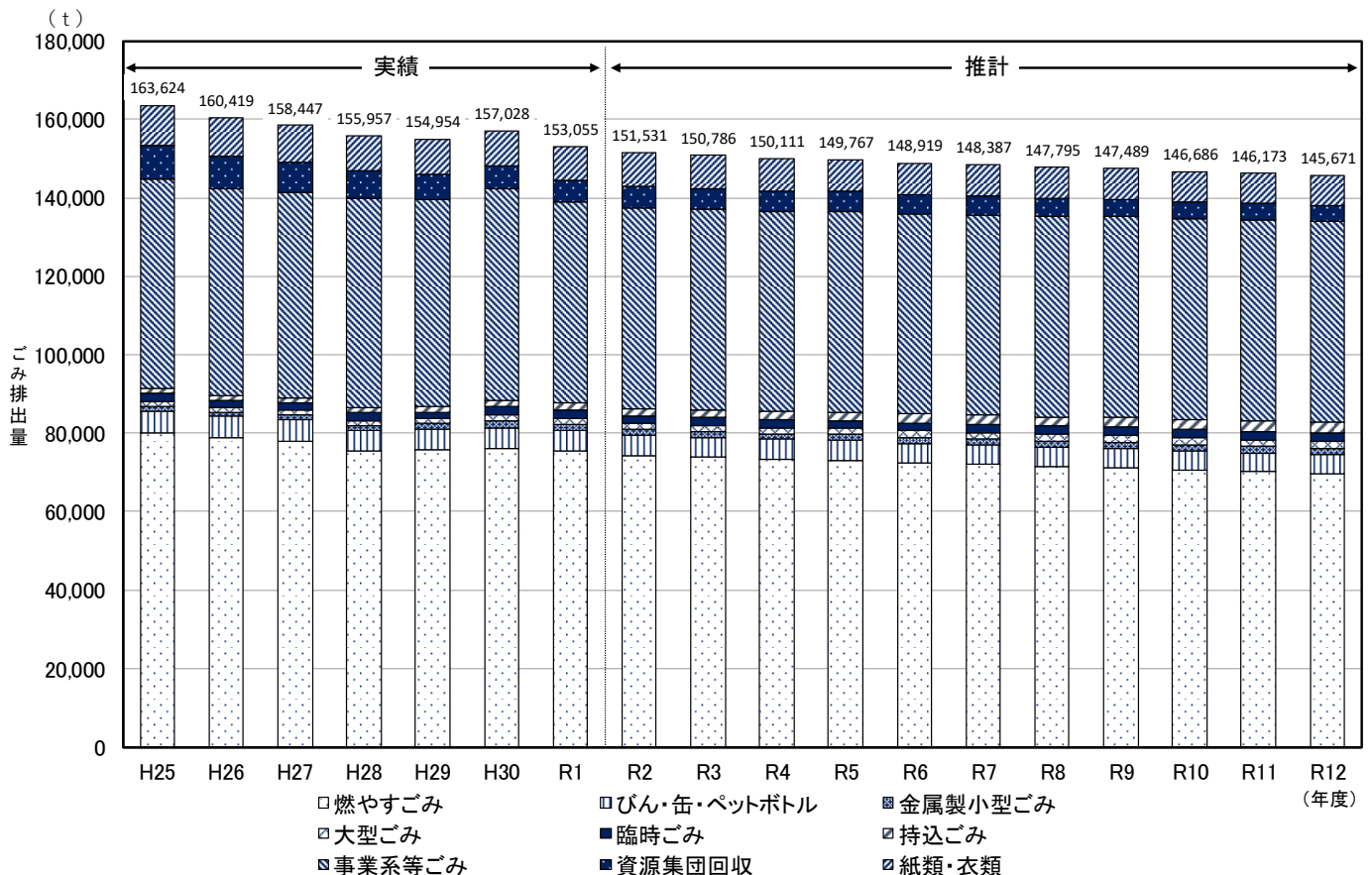


図 1 ごみ排出量推計

イ 「燃やすごみ」の排出量

「燃やすごみ」の排出量は、人口の減少とともに緩やかに減少し、令和7年度には令和元年度比で約4.6%、令和12年度には約7.6%減少すると推計されます。

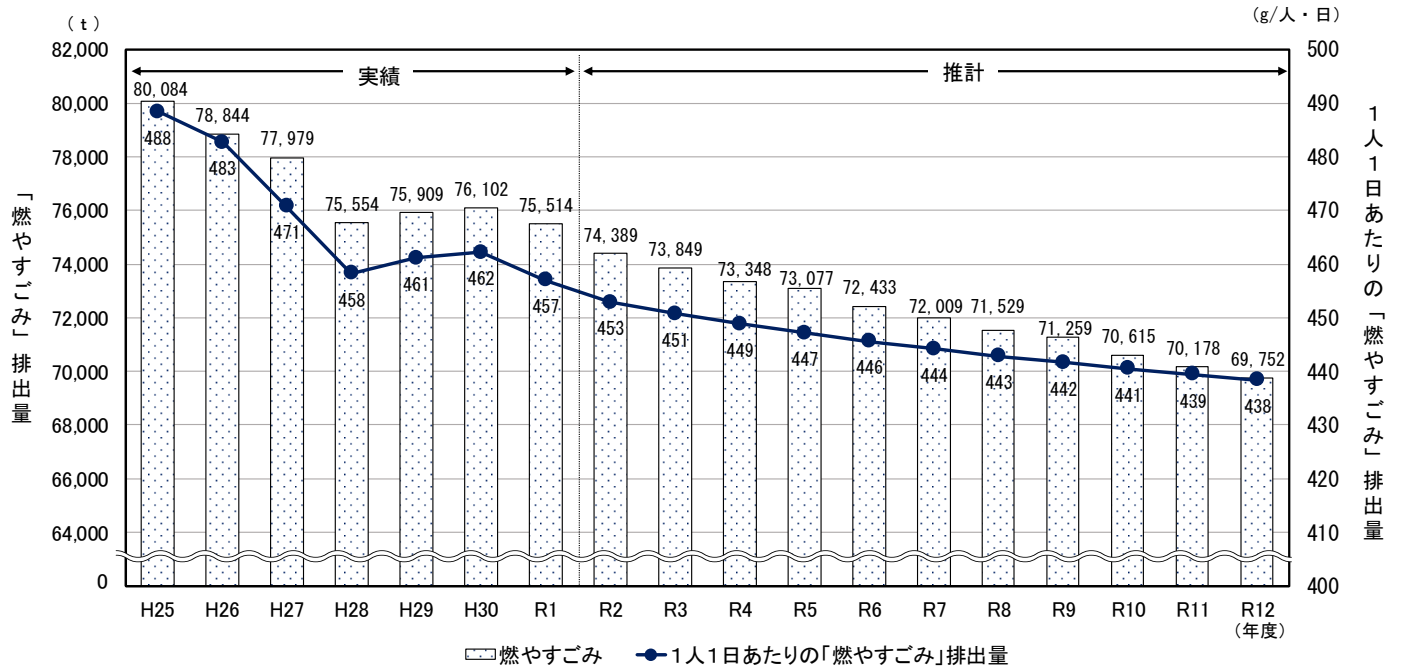


図2 「燃やすごみ」排出量推計

ウ 事業系ごみの排出量

事業系ごみの排出量は、R1年度排出量が横ばいで推移する推計としています。

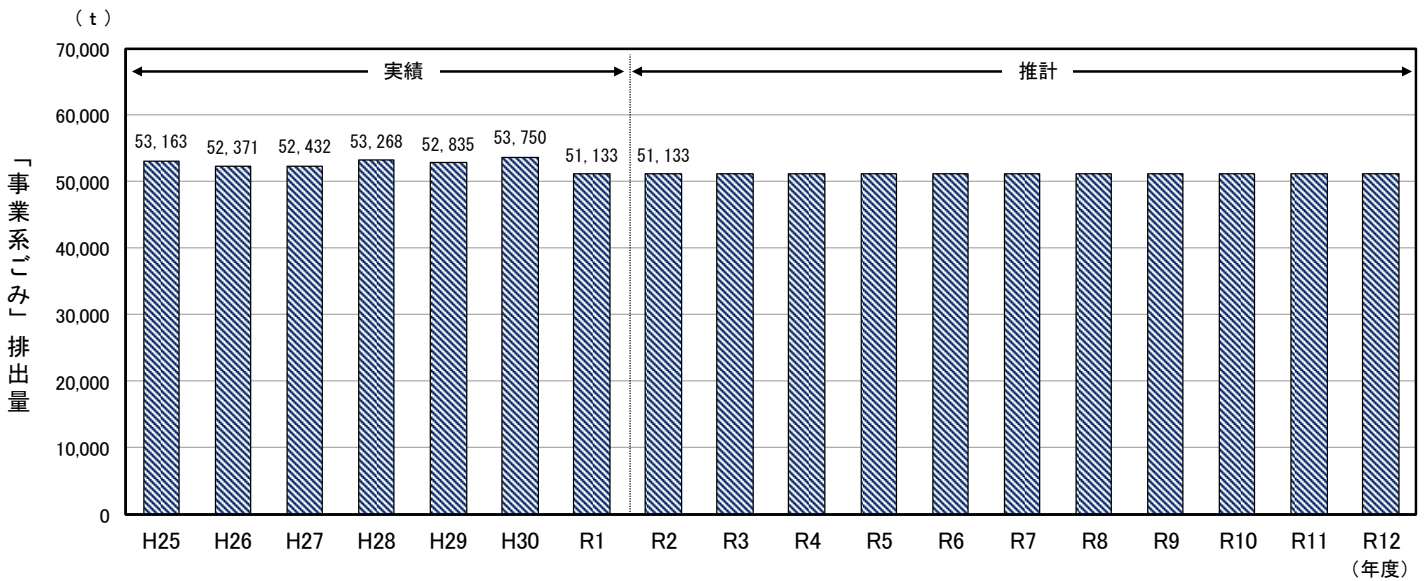


図3 「事業系ごみ」排出量推計

エ 焼却対象ごみ量

焼却対象ごみ量は、令和 7 年度には令和元年度比で約 2.3%、令和 12 年度には約 3.5%減少すると推計されますが、令和 7 年度時点でクリーンセンター第 1 工場を廃止するために必要な約 129,000 t までの減量は達成できない見込みとなっています。

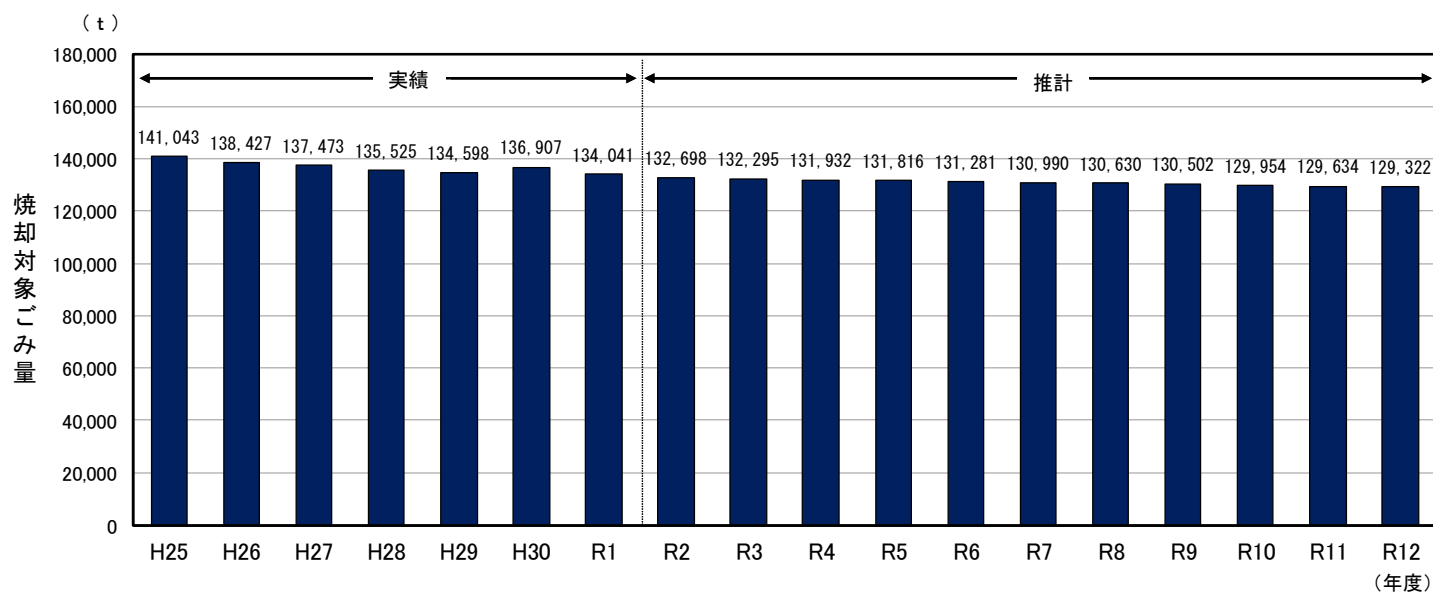


図 4 焼却対象ごみ量推計

3 推計の方法について

- ・家庭系ごみの過去の排出量実績を用い、時系列トレンド推計法により推計を行います。推計に用いた式は、表7のとおりです。
- ・過去の実績は、燃やすごみのごみ収集回数の変更による影響を除くため、過去7年間（平成25年～令和元年）の値を用います。

表7 推計に用いた式及びその特徴

推計式	数式※	特徴
直線式（一次式）	$y = aX + b$	単調な増加（減少）を示す直線式
二次式（二次関数式）	$y = aX^2 + bX + c$	実績値の変動傾向を極端に反映した予測になりやすく増減傾向が急激となる放物線状のグラフとなる式
対数式	$y = a \log X + b$	年次とともに増加率（減少率）が収縮していく曲線式
指数式	$y = ab^X$	年次とともに緩やかに増加（減少）していく曲線式
べき乗式	$y = aX^b$	年次とともに増加率（減少率）が増大していく曲線式
ロジスティック式	$y = k / (1 + e^{-bx})$	最初は増加（減少）し、途中でその増加率（減少率）が最大になった後、無限年後に飽和（K値）に達する曲線式 ※K値を推定で得られない場合は推計を行わなかった。

※ y：ごみ量、X：年度数、a、b：係数、e：ネイピア数（自然対数の底(=2.71828…)）、K：係数

4 推計結果について

(1) 燃やすごみ

- ・過去7年間で減少傾向にあるため、増加傾向にある2次関数式は除外します。
- ・2次関数式に次いで、決定係数が高く、増減が中庸な対数式を採用します。

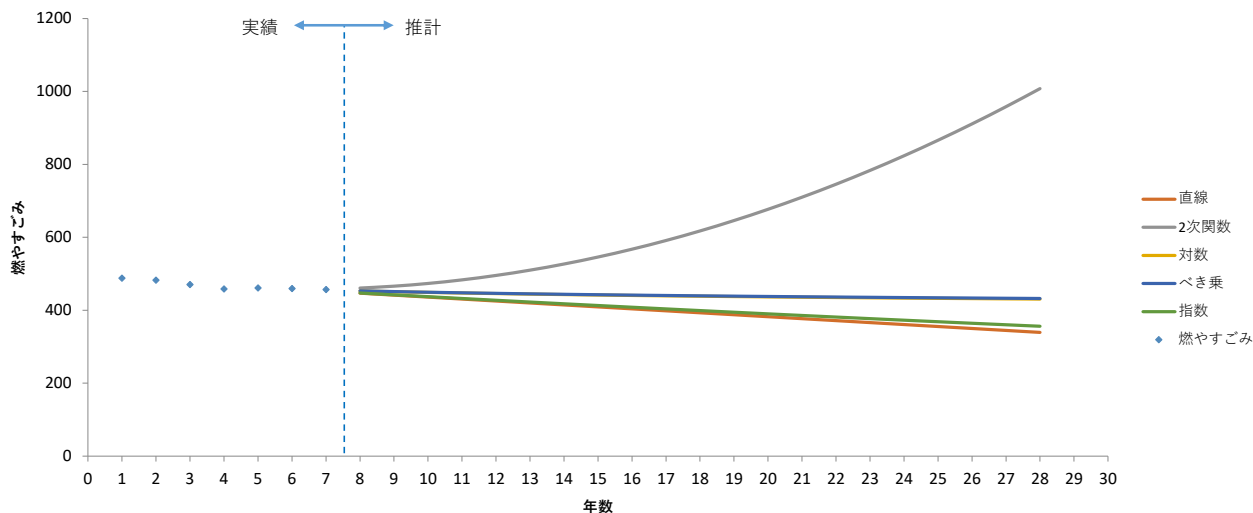


図 5 燃やすごみ 推計

表 8 燃やすごみ 推計

和暦年度	西暦年度	年数	燃やすごみ	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	488.38						
H26	2014	2	482.74						
H27	2015	3	470.78						
H28	2016	4	458.25						
H29	2017	5	461.13						
H30	2018	6	459.34						
R1	2019	7	457.00						
R2	2020	8		446.72	460.74	452.86	453.10	447.21	
R3	2021	9		441.34	465.88	450.76	451.09	442.14	
R4	2022	10		435.96	473.36	448.88	449.30	437.13	
R5	2023	11		430.58	483.18	447.18	447.68	432.17	
R6	2024	12		425.21	495.33	445.63	446.21	427.27	
R7	2025	13		419.83	509.82	444.20	444.87	422.42	
R8	2026	14		414.45	526.64	442.88	443.62	417.63	
R9	2027	15		409.07	545.81	441.65	442.47	412.90	
R10	2028	16		403.69	567.31	440.50	441.39	408.22	
R11	2029	17		398.31	591.15	439.42	440.38	403.59	
R12	2030	18		392.94	617.33	438.40	439.43	399.01	
R13	2031	19		387.56	645.84	437.43	438.54	394.49	
R14	2032	20		382.18	676.69	436.52	437.69	390.01	
R15	2033	21		376.80	709.88	435.65	436.88	385.59	
R16	2034	22		371.42	745.40	434.82	436.12	381.22	
R17	2035	23		366.05	783.27	434.02	435.39	376.90	
R18	2036	24		360.67	823.47	433.26	434.69	372.62	
R19	2037	25		355.29	866.01	432.54	434.02	368.40	
R20	2038	26		349.91	910.88	431.84	433.37	364.22	
R21	2039	27		344.53	958.10	431.16	432.76	360.09	
R22	2040	28		339.15	1007.65	430.51	432.16	356.01	
決定係数(R ²)				0.8279	0.9452	0.9154	0.9141	0.8295	
決定係数 順位				5	1	2	3	4	

*平成30年実績の原単位は、災害廃棄物の影響を除いた補正值を用いた

(2) びん・缶・ペットボトル

- ・過去7年間は、ほぼ横ばいながらも減少傾向にあるため、2次関数式は除外します。
- ・2次関数式に次いで、決定係数が高く、増減が中庸な対数式を採用します。

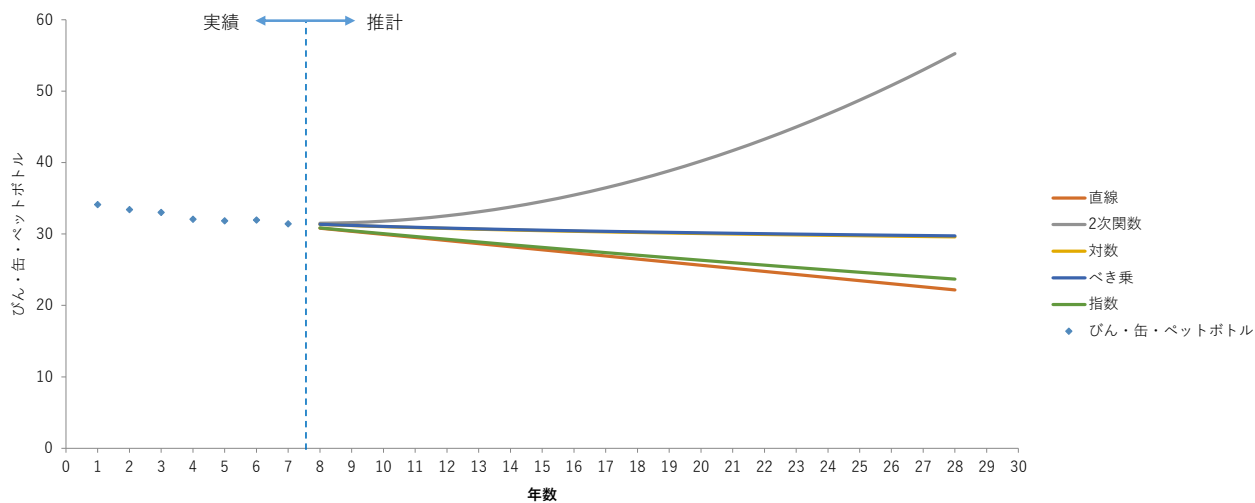


図 6 びん・缶・ペットボトル 推計

表 9 びん・缶・ペットボトル 推計

和暦年度	西暦年度	年数	びん・缶・ペットボトル	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	34.10						
H26	2014	2	33.41						
H27	2015	3	33.02						
H28	2016	4	32.06						
H29	2017	5	31.83						
H30	2018	6	31.96						
R1	2019	7	31.43						
R2	2020	8		30.82	31.51	31.35	31.36	30.86	
R3	2021	9		30.38	31.60	31.18	31.21	30.45	
R4	2022	10		29.95	31.80	31.04	31.07	30.05	
R5	2023	11		29.52	32.12	30.90	30.94	29.66	
R6	2024	12		29.09	32.56	30.78	30.83	29.27	
R7	2025	13		28.66	33.11	30.67	30.73	28.88	
R8	2026	14		28.22	33.78	30.57	30.63	28.50	
R9	2027	15		27.79	34.56	30.47	30.54	28.13	
R10	2028	16		27.36	35.46	30.38	30.46	27.76	
R11	2029	17		26.93	36.47	30.30	30.38	27.40	
R12	2030	18		26.49	37.60	30.22	30.30	27.04	
R13	2031	19		26.06	38.85	30.14	30.23	26.68	
R14	2032	20		25.63	40.21	30.07	30.17	26.33	
R15	2033	21		25.20	41.69	30.00	30.11	25.99	
R16	2034	22		24.77	43.28	29.94	30.05	25.64	
R17	2035	23		24.33	44.99	29.88	29.99	25.31	
R18	2036	24		23.90	46.81	29.82	29.94	24.98	
R19	2037	25		23.47	48.75	29.76	29.88	24.65	
R20	2038	26		23.04	50.81	29.71	29.83	24.32	
R21	2039	27		22.60	52.98	29.65	29.79	24.00	
R22	2040	28		22.17	55.27	29.60	29.74	23.69	
決定係数 (R ²)				0.9135	0.9627	0.9509	0.9483	0.9161	
決定係数 順位				5	1	2	3	4	

(3) 金属製小型ごみ

- ・過去7年間は、ほぼ横ばい傾向にあります。
- ・決定係数が高いのは2次関数式、指数式、直線式ですが、いずれも大幅に増加するため、増減が中庸で、対数式より決定係数が高いべき乗式を採用します。

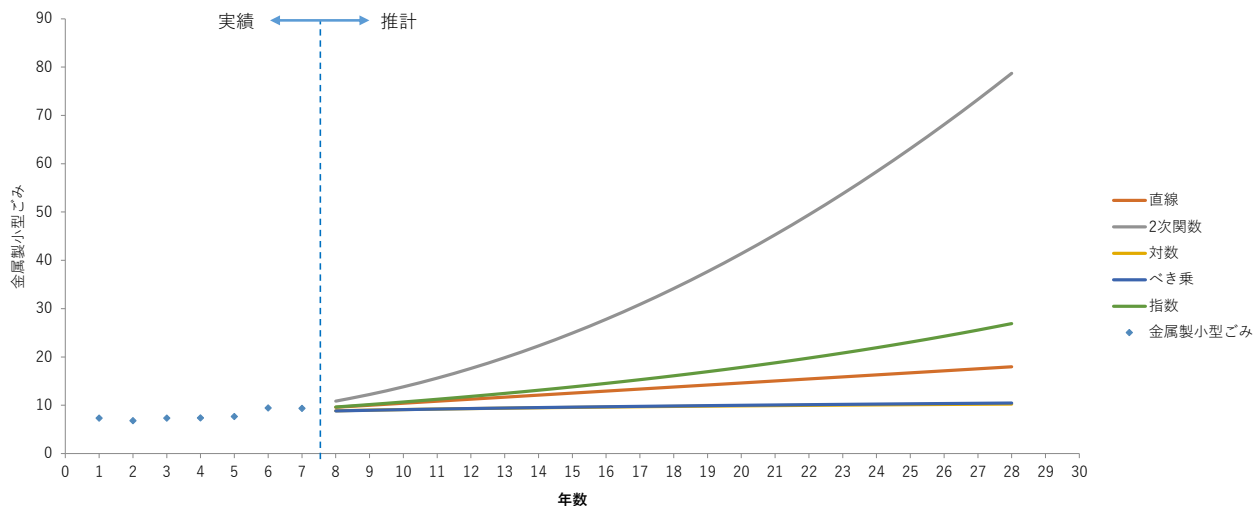


図 7 金属製小型ごみ 推計

表 10 金属製小型ごみ 推計

和暦年度	西暦年度	年数	金属製小型ごみ	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	7.32						
H26	2014	2	6.82						
H27	2015	3	7.32						
H28	2016	4	7.39						
H29	2017	5	7.67						
H30	2018	6	9.44						
R1	2019	7	9.37						
R2	2020	8		9.58	10.86	8.86	8.82	9.64	
R3	2021	9		10.00	12.23	8.99	8.97	10.14	
R4	2022	10		10.42	13.82	9.11	9.09	10.68	
R5	2023	11		10.84	15.62	9.21	9.21	11.24	
R6	2024	12		11.26	17.63	9.31	9.32	11.83	
R7	2025	13		11.68	19.85	9.40	9.43	12.46	
R8	2026	14		12.10	22.29	9.48	9.52	13.11	
R9	2027	15		12.52	24.94	9.56	9.61	13.80	
R10	2028	16		12.94	27.80	9.63	9.69	14.53	
R11	2029	17		13.36	30.88	9.70	9.78	15.30	
R12	2030	18		13.77	34.16	9.76	9.85	16.10	
R13	2031	19		14.19	37.66	9.82	9.92	16.95	
R14	2032	20		14.61	41.37	9.88	9.99	17.84	
R15	2033	21		15.03	45.30	9.93	10.06	18.78	
R16	2034	22		15.45	49.43	9.98	10.12	19.77	
R17	2035	23		15.87	53.78	10.03	10.19	20.81	
R18	2036	24		16.29	58.34	10.08	10.24	21.91	
R19	2037	25		16.71	63.11	10.12	10.30	23.07	
R20	2038	26		17.13	68.10	10.17	10.36	24.28	
R21	2039	27		17.55	73.30	10.21	10.41	25.56	
R22	2040	28		17.97	78.71	10.25	10.46	26.91	
決定係数 (R ²)				0.7364	0.8781	0.5176	0.5254	0.7449	
決定係数 順位				3	1	5	4	2	

*平成30年実績の原単位は、災害廃棄物の影響を除いた補正值を用いた

(4) 大型ごみ

- ・過去7年間は、ほぼ横ばい傾向であるため、2次関数式は除外します。
- ・2次関数式に次いで増減が中庸で、他と比べて決定係数が高い直線式を採用します。

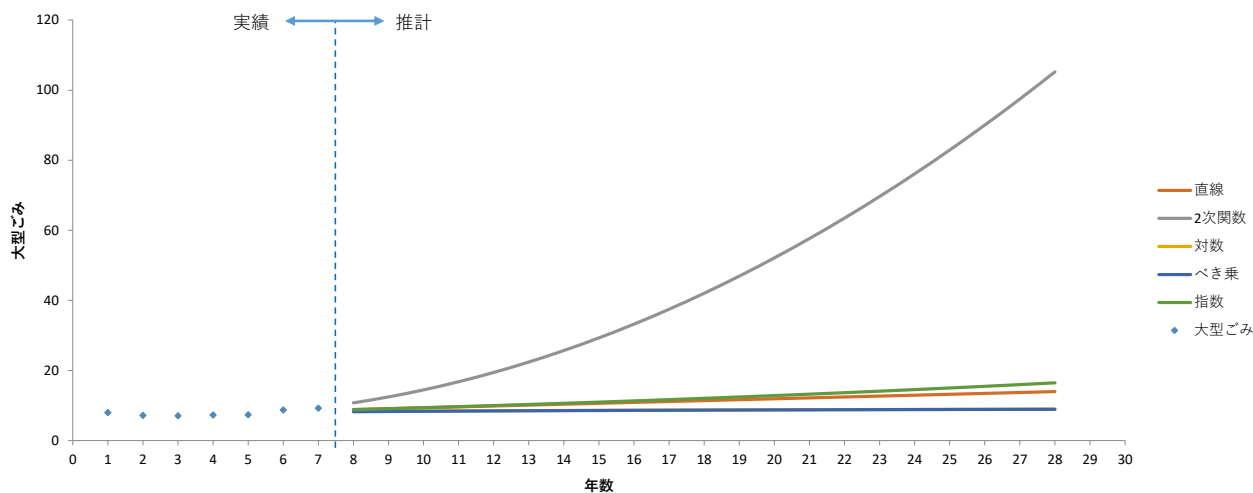


図 8 大型ごみ 推計

表 11 大型ごみ 推計

和暦年度	西暦年度	年数	大型ごみ	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	7.96						
H26	2014	2	7.15						
H27	2015	3	7.07						
H28	2016	4	7.27						
H29	2017	5	7.37						
H30	2018	6	8.73						
R1	2019	7	9.20						
R2	2020	8		8.85	10.76	8.29	8.23	8.82	
R3	2021	9		9.10	12.45	8.35	8.30	9.10	
R4	2022	10		9.36	14.46	8.41	8.35	9.39	
R5	2023	11		9.62	16.79	8.46	8.41	9.69	
R6	2024	12		9.87	19.44	8.51	8.45	10.00	
R7	2025	13		10.13	22.41	8.55	8.50	10.31	
R8	2026	14		10.39	25.70	8.59	8.54	10.64	
R9	2027	15		10.64	29.31	8.63	8.58	10.98	
R10	2028	16		10.90	33.23	8.67	8.61	11.33	
R11	2029	17		11.16	37.48	8.70	8.65	11.69	
R12	2030	18		11.41	42.04	8.73	8.68	12.06	
R13	2031	19		11.67	46.92	8.76	8.71	12.44	
R14	2032	20		11.92	52.12	8.79	8.74	12.84	
R15	2033	21		12.18	57.64	8.81	8.77	13.24	
R16	2034	22		12.44	63.48	8.84	8.79	13.66	
R17	2035	23		12.69	69.64	8.86	8.82	14.10	
R18	2036	24		12.95	76.12	8.89	8.84	14.54	
R19	2037	25		13.21	82.92	8.91	8.87	15.01	
R20	2038	26		13.46	90.03	8.93	8.89	15.48	
R21	2039	27		13.72	97.47	8.95	8.91	15.97	
R22	2040	28		13.98	105.22	8.97	8.93	16.48	
決定係数(R ²)				0.4313	0.9321	0.1945	0.1819	0.4163	
決定係数 順位				2	1	4	5	3	

*平成 30 年実績の原単位は、災害廃棄物の影響を除いた補正値を用いた

(5) 臨時ごみ

- ・過去7年間は、ほぼ横ばい傾向であるため、2次関数式は除外します。
- ・2次関数式に次いで、決定係数が高い直線式を採用します。

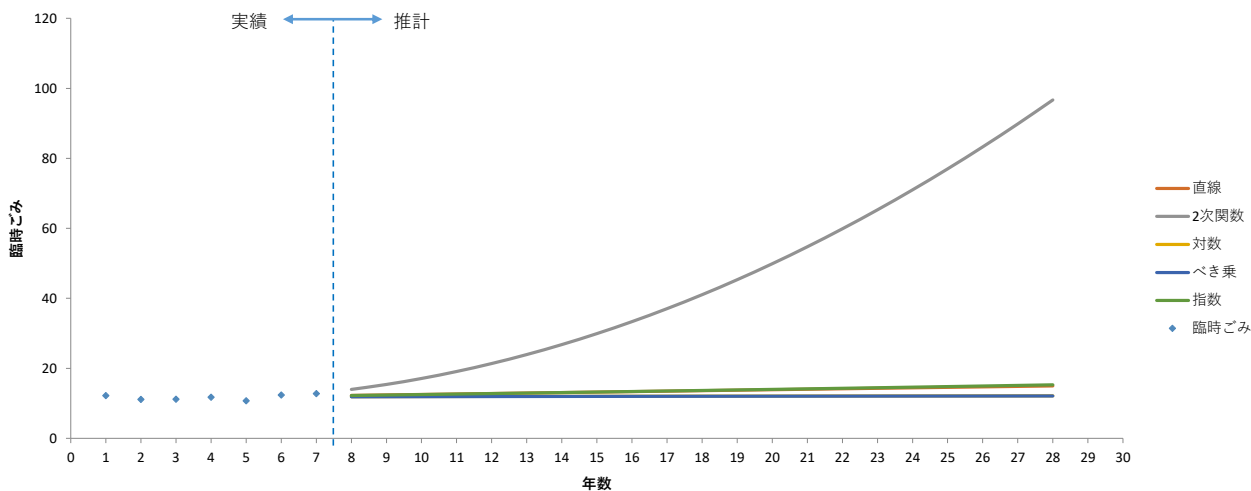


図 9 臨時ごみ 推計

表 12 臨時ごみ 推計

和暦年度	西暦年度	年数	臨時ごみ	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	12.17						
H26	2014	2	11.12						
H27	2015	3	11.14						
H28	2016	4	11.75						
H29	2017	5	10.71						
H30	2018	6	12.38						
R1	2019	7	12.74						
R2	2020	8		12.26	13.97	11.89	11.86	12.23	
R3	2021	9		12.39	15.39	11.91	11.88	12.37	
R4	2022	10		12.53	17.10	11.93	11.90	12.51	
R5	2023	11		12.67	19.09	11.95	11.92	12.65	
R6	2024	12		12.80	21.37	11.97	11.93	12.79	
R7	2025	13		12.94	23.94	11.99	11.95	12.93	
R8	2026	14		13.07	26.79	12.00	11.96	13.08	
R9	2027	15		13.21	29.92	12.02	11.98	13.22	
R10	2028	16		13.34	33.34	12.03	11.99	13.37	
R11	2029	17		13.48	37.05	12.04	12.00	13.52	
R12	2030	18		13.62	41.04	12.05	12.01	13.67	
R13	2031	19		13.75	45.32	12.06	12.02	13.83	
R14	2032	20		13.89	49.89	12.07	12.03	13.98	
R15	2033	21		14.02	54.74	12.08	12.04	14.14	
R16	2034	22		14.16	59.87	12.09	12.05	14.30	
R17	2035	23		14.29	65.29	12.10	12.06	14.46	
R18	2036	24		14.43	71.00	12.11	12.07	14.62	
R19	2037	25		14.57	76.99	12.12	12.08	14.79	
R20	2038	26		14.70	83.27	12.13	12.08	14.95	
R21	2039	27		14.84	89.84	12.13	12.09	15.12	
R22	2040	28		14.97	96.69	12.14	12.10	15.29	
決定係数(R ²)				0.1519	0.6567	0.0336	0.0291	0.1406	
決定係数 順位				2	1	4	5	3	

*平成 30 年実績の原単位は、災害廃棄物の影響を除いた補正値を用いた

(6) 持ち込みごみ

- ・過去7年間はほぼ横ばい傾向であるため、2次関数式、指数式は除外します。
- ・2次関数式、指数式に次いで、決定係数が高い直線式を採用します。

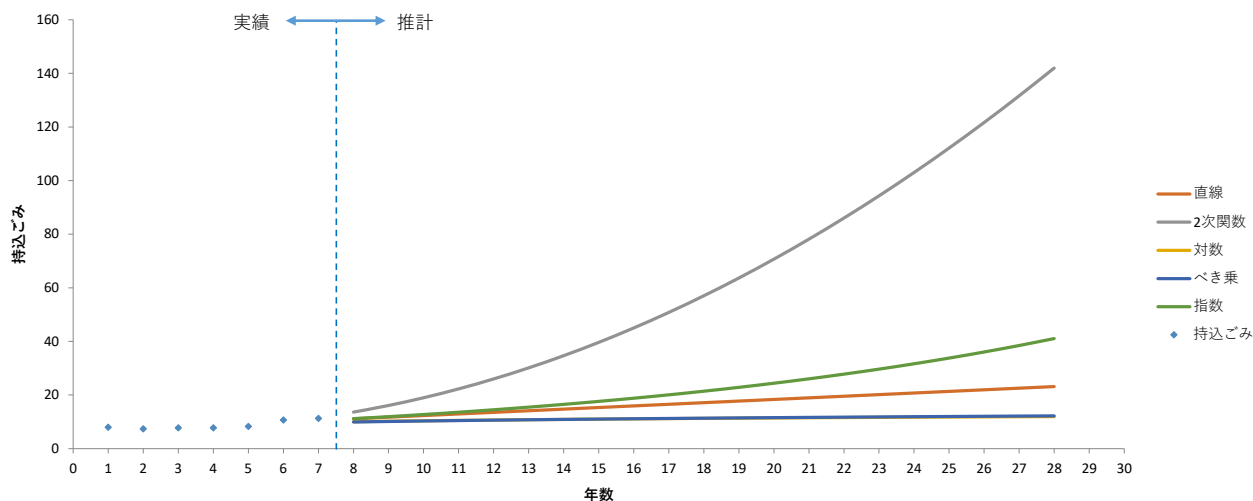


図 10 持ち込みごみ 推計

表 13 持ち込みごみ 推計

和暦年度	西暦年度	年数	持ち込みごみ	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	8.01						
H26	2014	2	7.37						
H27	2015	3	7.75						
H28	2016	4	7.73						
H29	2017	5	8.26						
H30	2018	6	10.64						
R1	2019	7	11.27						
R2	2020	8		11.12	13.62	10.04	9.93	11.17	
R3	2021	9		11.72	16.09	10.22	10.12	11.92	
R4	2022	10		12.33	18.97	10.38	10.30	12.72	
R5	2023	11		12.93	22.27	10.52	10.46	13.58	
R6	2024	12		13.53	25.99	10.65	10.61	14.49	
R7	2025	13		14.13	30.12	10.78	10.76	15.46	
R8	2026	14		14.73	34.67	10.89	10.89	16.50	
R9	2027	15		15.33	39.64	11.00	11.01	17.61	
R10	2028	16		15.93	45.01	11.09	11.13	18.80	
R11	2029	17		16.53	50.81	11.19	11.24	20.06	
R12	2030	18		17.13	57.02	11.27	11.35	21.41	
R13	2031	19		17.73	63.64	11.36	11.45	22.85	
R14	2032	20		18.34	70.69	11.44	11.55	24.39	
R15	2033	21		18.94	78.14	11.51	11.64	26.03	
R16	2034	22		19.54	86.01	11.58	11.73	27.78	
R17	2035	23		20.14	94.30	11.65	11.82	29.65	
R18	2036	24		20.74	103.00	11.71	11.90	31.64	
R19	2037	25		21.34	112.12	11.78	11.98	33.77	
R20	2038	26		21.94	121.66	11.84	12.06	36.04	
R21	2039	27		22.54	131.61	11.89	12.14	38.47	
R22	2040	28		23.14	141.97	11.95	12.21	41.05	
決定係数(R ²)				0.6906	0.9381	0.4486	0.4495	0.6932	
決定係数 順位				3	1	5	4	2	

*平成 30 年実績の原単位は、災害廃棄物の影響を除いた補正値を用いた

(7) 資源集団回収量

- 資源集団回収量の推計は、「資源集団回収運動団体数（団体）」と「1 団体 1 日当たり回収量（原単位）」のそれぞれを推計し、その推計値を用いて、次式で計算しました。

$$\text{①資源集団回収運動団体数} \times \text{②原単位} \times \text{年間日数} = \text{資源集団回収量}$$

表 14 集団回収団体数・原単位 推計

和暦 年度	西暦 年度	年数	年間 日数	直線式	対数	対数	対数	対数	対数
				①集団回収 団体数 (団体)	②1団体1日当たり回収量 (kg/団体・日)				
					新聞	雑誌	ダンボール	牛乳パック	その他(缶 類・布類・ びん類)
H25	1	1	365	567	22.99	10.35	6.15	0.22	2.47
H26	2	2	365	564	21.74	9.90	6.13	0.21	2.29
H27	3	3	366	561	20.00	9.42	5.93	0.19	2.24
H28	4	4	365	560	18.59	8.88	5.87	0.19	2.16
H29	5	5	365	556	16.40	7.78	5.25	0.18	2.08
H30	6	6	365	555	14.82	7.24	5.09	0.16	2.02
R1	2019	7	366	550	13.19	6.69	5.05	0.16	2.15
R2	2020	8	365	548	13.92	6.97	5.10	0.16	2.03
R3	2021	9	365	546	13.33	6.74	5.02	0.16	2.00
R4	2022	10	365	543	12.80	6.54	4.96	0.15	1.98
R5	2023	11	366	541	12.32	6.36	4.90	0.15	1.96
R6	2024	12	365	538	11.88	6.20	4.84	0.15	1.94
R7	2025	13	365	535	11.48	6.04	4.79	0.14	1.93
R8	2026	14	365	533	11.11	5.90	4.74	0.14	1.91
R9	2027	15	366	530	10.76	5.77	4.70	0.14	1.90
R10	2028	16	365	527	10.44	5.65	4.66	0.14	1.88
R11	2029	17	365	525	10.13	5.53	4.62	0.14	1.87
R12	2030	18	365	522	9.85	5.43	4.59	0.13	1.86
R13	2031	19	366	519	9.58	5.32	4.55	0.13	1.85
R14	2032	20	365	517	9.32	5.22	4.52	0.13	1.84
R15	2033	21	365	514	9.07	5.13	4.49	0.13	1.83
R16	2034	22	365	511	8.84	5.04	4.46	0.13	1.82
R17	2035	23	366	509	8.62	4.96	4.43	0.13	1.81
R18	2036	24	365	506	8.40	4.88	4.40	0.12	1.80
R19	2037	25	365	504	8.20	4.80	4.38	0.12	1.79
R20	2038	26	365	501	8.00	4.73	4.35	0.12	1.79
R21	2039	27	366	498	7.81	4.65	4.33	0.12	1.78
R22	2040	28	365	496	7.63	4.58	4.31	0.12	1.77

ア 資源集団回収運動団体数

- ・過去7年間は、減少傾向で推移しているため、増加に転じる2次関数式は除外します。
- ・2次関数式に次いで、決定係数が高い直線式を採用します。
- ・推計値は団体数であるため、推計値を四捨五入し整数化した値を資源集団回収量の推計に用います。

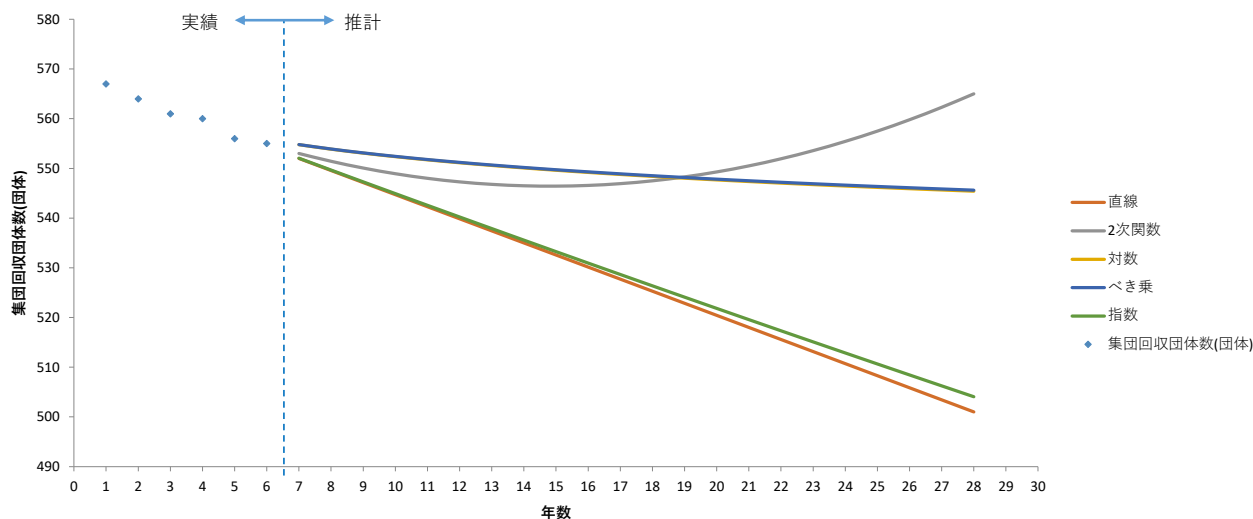


図 11 集団回収団体数 推計

表 15 資源集団回収運動団体数 推計

和暦年度	西暦年度	年数	集団回収団体数 (団体)	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック	推計値を 整数化 (四捨五入)
H25	2013	1	567.00							
H26	2014	2	564.00							
H27	2015	3	561.00							
H28	2016	4	560.00							
H29	2017	5	556.00							
H30	2018	6	555.00							
R1	2019	7	550.00							
R2	2020	8		548.43	547.57	552.12	552.15	548.50	545.73	548
R3	2021	9		545.79	544.29	551.18	551.22	545.91	540.91	546
R4	2022	10		543.14	540.86	550.34	550.39	543.33	535.44	543
R5	2023	11		540.50	537.29	549.58	549.64	540.77	529.25	541
R6	2024	12		537.86	533.57	548.89	548.96	538.22	522.25	538
R7	2025	13		535.21	529.71	548.25	548.33	535.68	514.38	535
R8	2026	14		532.57	525.71	547.66	547.75	533.15	505.55	533
R9	2027	15		529.93	521.57	547.11	547.21	530.63	495.71	530
R10	2028	16		527.29	517.29	546.59	546.71	528.13	484.78	527
R11	2029	17		524.64	512.86	546.11	546.24	525.64	472.72	525
R12	2030	18		522.00	508.29	545.65	545.79	523.16	459.48	522
R13	2031	19		519.36	503.57	545.22	545.37	520.69	445.05	519
R14	2032	20		516.71	498.71	544.81	544.97	518.23	429.43	517
R15	2033	21		514.07	493.71	544.42	544.59	515.78	412.67	514
R16	2034	22		511.43	488.57	544.05	544.23	513.35	394.83	511
R17	2035	23		508.79	483.29	543.69	543.89	510.93	376.01	509
R18	2036	24		506.14	477.86	543.35	543.56	508.52	356.34	506
R19	2037	25		503.50	472.29	543.03	543.24	506.12	336.00	504
R20	2038	26		500.86	466.57	542.72	542.94	503.73	315.16	501
R21	2039	27		498.21	460.71	542.41	542.64	501.35	294.06	498
R22	2040	28		495.57	454.71	542.12	542.36	498.99	272.90	496
決定係数 (R ²)				0.9779	0.9800	0.8963	0.8935	0.9772	0.9739	
決定係数 順位				2	1	5	6	3	4	

イ 1 団体 1 日あたり回収量（原単位）

(ア) 新聞

- ・過去 7 年間で減少傾向にあります。
- ・決定係数が高いのはロジスティック式、2 次関数、直線式、指数式ですが、いずれも大幅に減少するため、増減が中庸な対数式を採用します。

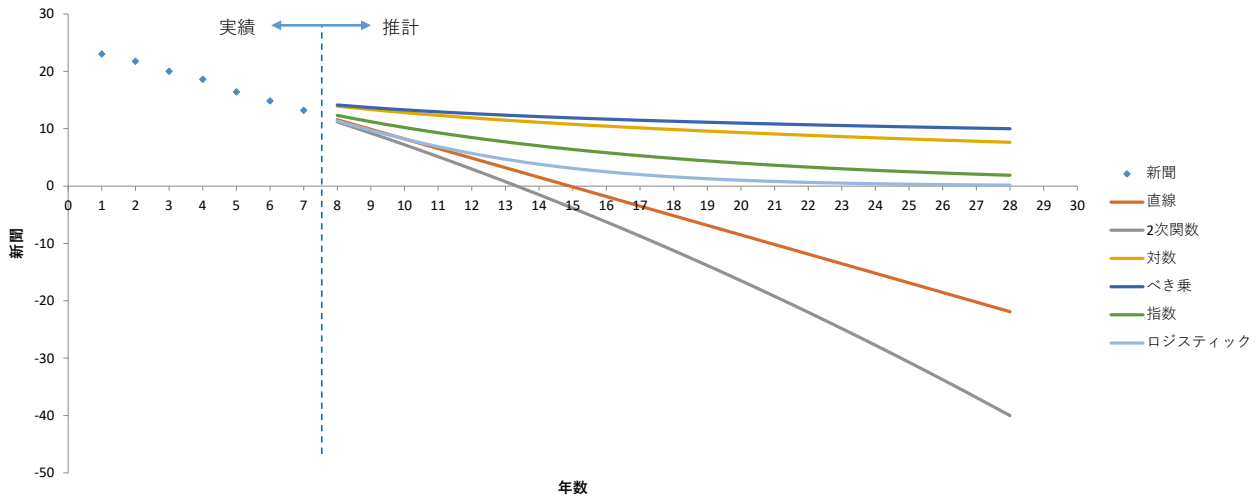


図 12 集団回収-新聞 推計

表 16 集団回収-新聞 推計

和暦年度	西暦年度	年数	新聞	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	22.99						
H26	2014	2	21.74						
H27	2015	3	20.00						
H28	2016	4	18.59						
H29	2017	5	16.40						
H30	2018	6	14.82						
R1	2019	7	13.19						
R2	2020	8		11.56	11.18	13.92	14.13	12.31	11.34
R3	2021	9		9.88	9.22	13.33	13.67	11.21	9.71
R4	2022	10		8.21	7.20	12.80	13.28	10.20	8.21
R5	2023	11		6.54	5.11	12.32	12.94	9.29	6.87
R6	2024	12		4.86	2.96	11.88	12.63	8.45	5.69
R7	2025	13		3.19	0.75	11.48	12.35	7.70	4.67
R8	2026	14		1.52	-1.52	11.11	12.10	7.00	3.80
R9	2027	15		-0.15	-3.86	10.76	11.87	6.38	3.08
R10	2028	16		-1.83	-6.26	10.44	11.66	5.80	2.48
R11	2029	17		-3.50	-8.72	10.13	11.47	5.28	1.99
R12	2030	18		-5.17	-11.25	9.85	11.29	4.81	1.59
R13	2031	19		-6.85	-13.84	9.58	11.12	4.38	1.27
R14	2032	20		-8.52	-16.50	9.32	10.96	3.99	1.01
R15	2033	21		-10.19	-19.22	9.07	10.82	3.63	0.80
R16	2034	22		-11.86	-22.00	8.84	10.68	3.30	0.64
R17	2035	23		-13.54	-24.84	8.62	10.55	3.01	0.50
R18	2036	24		-15.21	-27.75	8.40	10.42	2.74	0.40
R19	2037	25		-16.88	-30.72	8.20	10.31	2.49	0.32
R20	2038	26		-18.56	-33.76	8.00	10.20	2.27	0.25
R21	2039	27		-20.23	-36.85	7.81	10.09	2.06	0.20
R22	2040	28		-21.90	-40.01	7.63	9.99	1.88	0.16
決定係数 (R ²)				0.9967	0.9978	0.9028	0.8594	0.9867	0.9984
決定係数 順位				3	2	5	6	4	1

(イ) 雑誌

- ・過去7年間で減少傾向にあります。
- ・決定係数が高いのはロジスティック式、2次関数、直線式、指数式ですが、いずれも大幅に減少するため、増減が中庸な対数式を採用します。

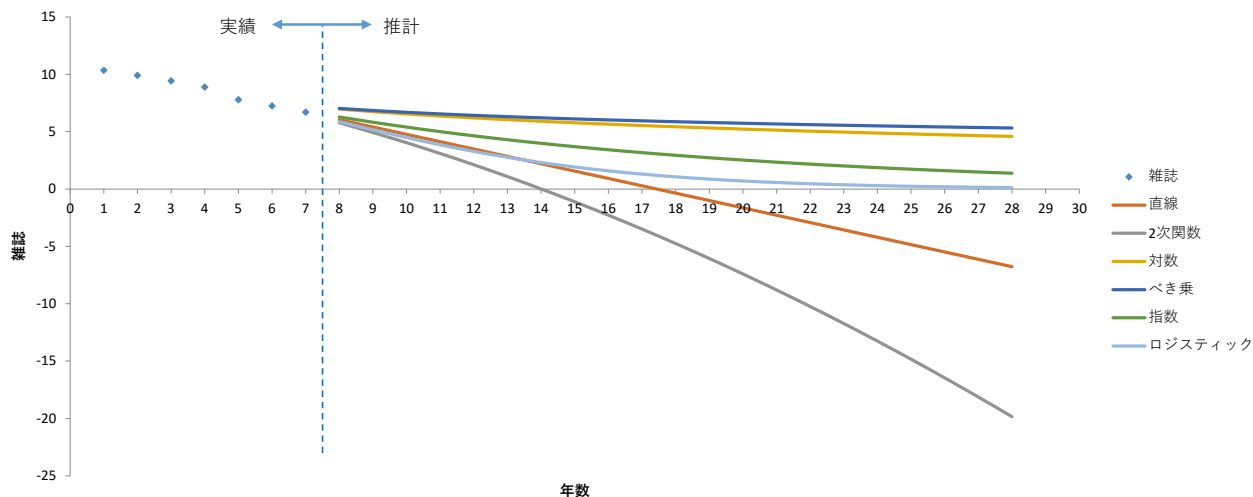


図 13 集団回収-雑誌 推計

表 17 集団回収-雑誌 推計

和暦年度	西暦年度	年数	雑誌	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	10.35						
H26	2014	2	9.90						
H27	2015	3	9.42						
H28	2016	4	8.88						
H29	2017	5	7.78						
H30	2018	6	7.24						
R1	2019	7	6.69						
R2	2020	8		6.05	5.77	6.97	7.03	6.28	5.87
R3	2021	9		5.41	4.92	6.74	6.84	5.82	5.16
R4	2022	10		4.76	4.03	6.54	6.69	5.40	4.48
R5	2023	11		4.12	3.09	6.36	6.55	5.00	3.85
R6	2024	12		3.48	2.11	6.20	6.42	4.64	3.28
R7	2025	13		2.84	1.08	6.04	6.31	4.30	2.76
R8	2026	14		2.20	0.01	5.90	6.20	3.98	2.31
R9	2027	15		1.56	-1.11	5.77	6.11	3.69	1.92
R10	2028	16		0.92	-2.28	5.65	6.02	3.42	1.58
R11	2029	17		0.28	-3.49	5.53	5.94	3.17	1.30
R12	2030	18		-0.36	-4.75	5.42	5.87	2.94	1.06
R13	2031	19		-1.00	-6.05	5.32	5.80	2.72	0.86
R14	2032	20		-1.64	-7.40	5.22	5.73	2.52	0.70
R15	2033	21		-2.28	-8.80	5.13	5.67	2.34	0.57
R16	2034	22		-2.92	-10.24	5.04	5.61	2.17	0.46
R17	2035	23		-3.57	-11.73	4.96	5.55	2.01	0.37
R18	2036	24		-4.21	-13.26	4.88	5.50	1.86	0.30
R19	2037	25		-4.85	-14.84	4.80	5.45	1.73	0.24
R20	2038	26		-5.49	-16.46	4.73	5.41	1.60	0.19
R21	2039	27		-6.13	-18.13	4.65	5.36	1.48	0.15
R22	2040	28		-6.77	-19.84	4.58	5.32	1.38	0.12
決定係数(R ²)				0.9847	0.9885	0.8734	0.8414	0.9761	0.9904
決定係数 順位				3	2	5	6	4	1

(ウ) 段ボール

- ・過去7年間で緩やかに減少傾向にあります。
- ・決定係数が高いのはロジスティック式、2次関数式、直線式、指数式ですが、いずれも大幅に減少するため除外し、増減が中庸で、べき乗式よりも決定係数が大きい対数式を採用します。

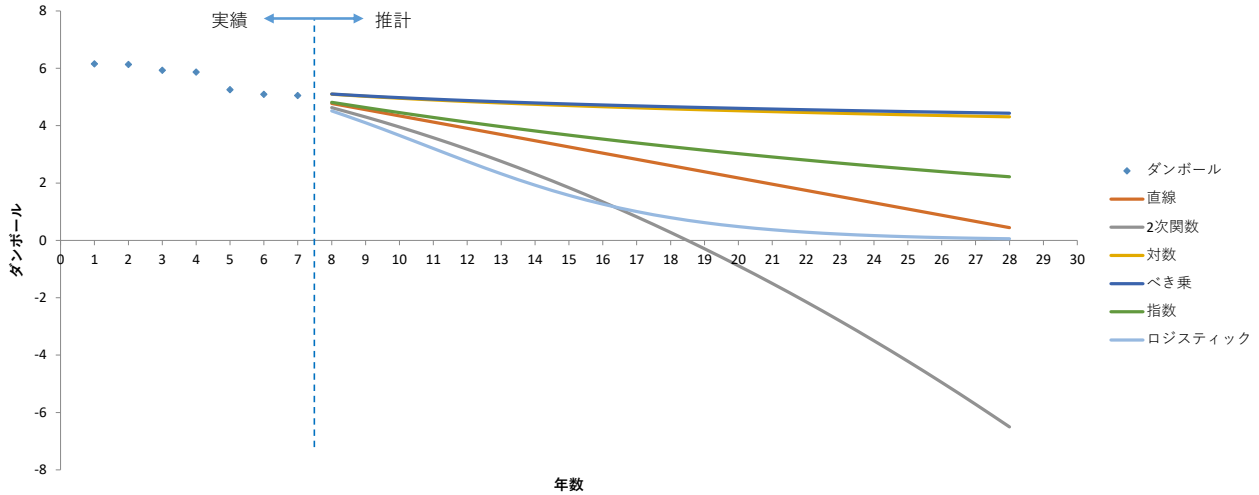


図 14 集団回収-ダンボール 推計

表 18 集団回収-段ボール 推計

和暦年度	西暦年度	年数	ダンボール	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	6.15						
H26	2014	2	6.13						
H27	2015	3	5.93						
H28	2016	4	5.87						
H29	2017	5	5.25						
H30	2018	6	5.09						
R1	2019	7	5.05						
R2	2020	8		4.77	4.63	5.10	5.10	4.81	4.51
R3	2021	9		4.56	4.30	5.02	5.04	4.63	4.10
R4	2022	10		4.34	3.95	4.96	4.98	4.45	3.66
R5	2023	11		4.12	3.58	4.90	4.92	4.29	3.20
R6	2024	12		3.91	3.18	4.84	4.88	4.12	2.75
R7	2025	13		3.69	2.76	4.79	4.83	3.97	2.32
R8	2026	14		3.47	2.31	4.74	4.79	3.81	1.92
R9	2027	15		3.26	1.84	4.70	4.75	3.67	1.57
R10	2028	16		3.04	1.34	4.66	4.72	3.53	1.26
R11	2029	17		2.83	0.82	4.62	4.69	3.40	1.01
R12	2030	18		2.61	0.28	4.59	4.66	3.27	0.79
R13	2031	19		2.39	-0.29	4.55	4.63	3.14	0.62
R14	2032	20		2.18	-0.88	4.52	4.60	3.02	0.48
R15	2033	21		1.96	-1.50	4.49	4.58	2.91	0.37
R16	2034	22		1.74	-2.14	4.46	4.55	2.80	0.29
R17	2035	23		1.53	-2.81	4.43	4.53	2.69	0.22
R18	2036	24		1.31	-3.50	4.40	4.51	2.59	0.17
R19	2037	25		1.09	-4.21	4.38	4.49	2.49	0.13
R20	2038	26		0.88	-4.95	4.35	4.47	2.40	0.10
R21	2039	27		0.66	-5.71	4.33	4.45	2.31	0.07
R22	2040	28		0.44	-6.50	4.31	4.43	2.22	0.06
決定係数(R ²)				0.9109	0.9195	0.7750	0.7649	0.9072	0.9320
決定係数 順位				3	2	5	6	4	1

(エ) 牛乳パック

- ・過去7年間で減少傾向にあるため、増加傾向にある2次関数式は除外します。
- ・2次関数式の次に決定係数が大きい、直線式、ロジスティック式、指数式は大幅に減少するため除外し、増減が中庸で、べき乗式よりも決定係数が大きい対数式を採用します。

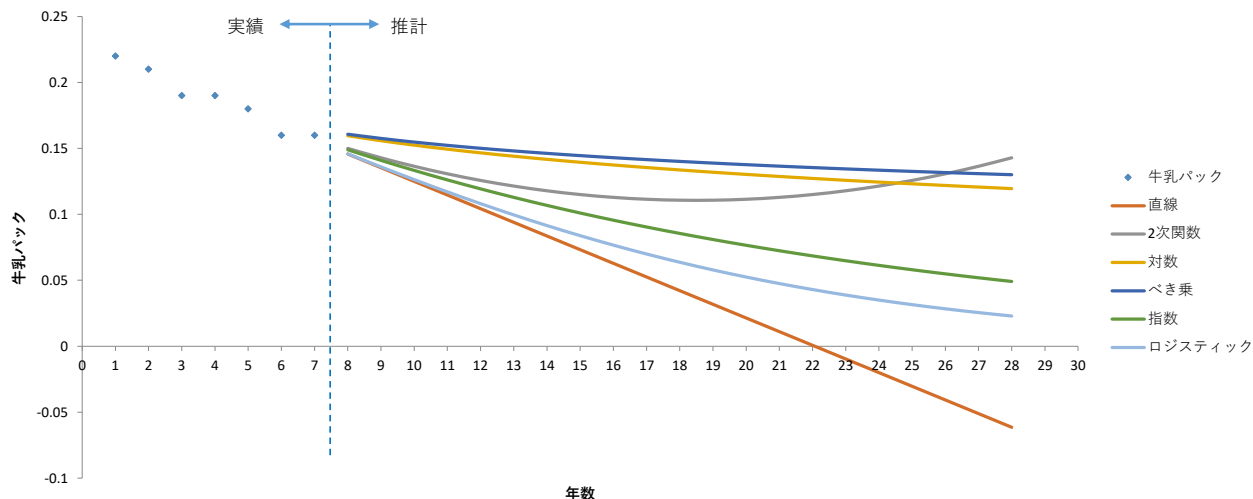


図 15 集団回収-牛乳パック 推計

表 19 集団回収-牛乳パック 推計

和暦年度	西暦年度	年数	牛乳パック	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	0.22						
H26	2014	2	0.21						
H27	2015	3	0.19						
H28	2016	4	0.19						
H29	2017	5	0.18						
H30	2018	6	0.16						
R1	2019	7	0.16						
R2	2020	8		0.15	0.15	0.16	0.16	0.15	0.15
R3	2021	9		0.14	0.14	0.16	0.16	0.14	0.14
R4	2022	10		0.13	0.14	0.15	0.15	0.13	0.13
R5	2023	11		0.11	0.13	0.15	0.15	0.13	0.12
R6	2024	12		0.10	0.13	0.15	0.15	0.12	0.11
R7	2025	13		0.09	0.12	0.14	0.15	0.11	0.10
R8	2026	14		0.08	0.12	0.14	0.15	0.11	0.09
R9	2027	15		0.07	0.11	0.14	0.14	0.10	0.08
R10	2028	16		0.06	0.11	0.14	0.14	0.10	0.08
R11	2029	17		0.05	0.11	0.14	0.14	0.09	0.07
R12	2030	18		0.04	0.11	0.13	0.14	0.09	0.06
R13	2031	19		0.03	0.11	0.13	0.14	0.08	0.06
R14	2032	20		0.02	0.11	0.13	0.14	0.08	0.05
R15	2033	21		0.01	0.11	0.13	0.14	0.07	0.05
R16	2034	22		0.00	0.11	0.13	0.14	0.07	0.04
R17	2035	23		-0.01	0.12	0.13	0.13	0.06	0.04
R18	2036	24		-0.02	0.12	0.12	0.13	0.06	0.04
R19	2037	25		-0.03	0.13	0.12	0.13	0.06	0.03
R20	2038	26		-0.04	0.13	0.12	0.13	0.05	0.03
R21	2039	27		-0.05	0.14	0.12	0.13	0.05	0.03
R22	2040	28		-0.06	0.14	0.12	0.13	0.05	0.02
決定係数 (R ²)				0.9557	0.9591	0.9160	0.8922	0.9549	0.9554
決定係数 順位				2	1	5	6	4	3

(オ) その他缶・布・びん

- ・過去7年間で減少傾向にあるため、増加傾向にある2次関数式は除外します。
- ・2次関数式に次いで、決定係数が高い対数式を採用します。

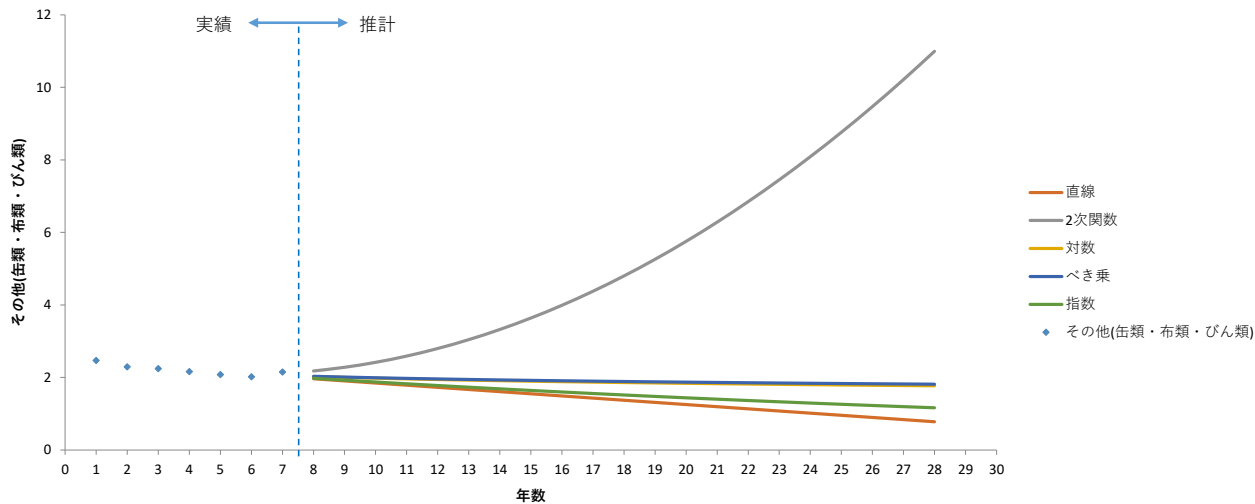


図 16 集団回収-その他缶・布・びん 推計

表 20 集団回収-その他缶・布・びん 推計

和暦年度	西暦年度	年数	その他(缶類・布類・びん類)	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	2.47						
H26	2014	2	2.29						
H27	2015	3	2.24						
H28	2016	4	2.16						
H29	2017	5	2.08						
H30	2018	6	2.02						
R1	2019	7	2.15						
R2	2020	8		1.96	2.18	2.03	2.03	1.98	
R3	2021	9		1.91	2.28	2.00	2.01	1.92	
R4	2022	10		1.85	2.42	1.98	1.99	1.87	
R5	2023	11		1.79	2.59	1.96	1.97	1.83	
R6	2024	12		1.73	2.80	1.94	1.96	1.78	
R7	2025	13		1.67	3.04	1.93	1.94	1.73	
R8	2026	14		1.61	3.32	1.91	1.93	1.69	
R9	2027	15		1.55	3.64	1.90	1.92	1.64	
R10	2028	16		1.49	3.99	1.88	1.91	1.60	
R11	2029	17		1.43	4.38	1.87	1.90	1.56	
R12	2030	18		1.37	4.80	1.86	1.89	1.52	
R13	2031	19		1.31	5.26	1.85	1.88	1.48	
R14	2032	20		1.25	5.75	1.84	1.87	1.44	
R15	2033	21		1.19	6.28	1.83	1.86	1.40	
R16	2034	22		1.13	6.85	1.82	1.85	1.36	
R17	2035	23		1.08	7.45	1.81	1.85	1.33	
R18	2036	24		1.02	8.09	1.80	1.84	1.29	
R19	2037	25		0.96	8.76	1.79	1.83	1.26	
R20	2038	26		0.90	9.47	1.79	1.83	1.23	
R21	2039	27		0.84	10.21	1.78	1.82	1.20	
R22	2040	28		0.78	10.99	1.77	1.81	1.16	
決定係数 (R ²)				0.7373	0.9379	0.8779	0.8678	0.7372	
決定係数 順位				4	1	2	3	5	

(8) 紙類・布類の日

ア 新聞

- ・過去7年間で減少傾向にあり、推計期間の途中で増加傾向となる2次関数式は除外します。
- ・他と比べて増減が中庸で、べき乗式より決定係数が高い対数式を採用します。

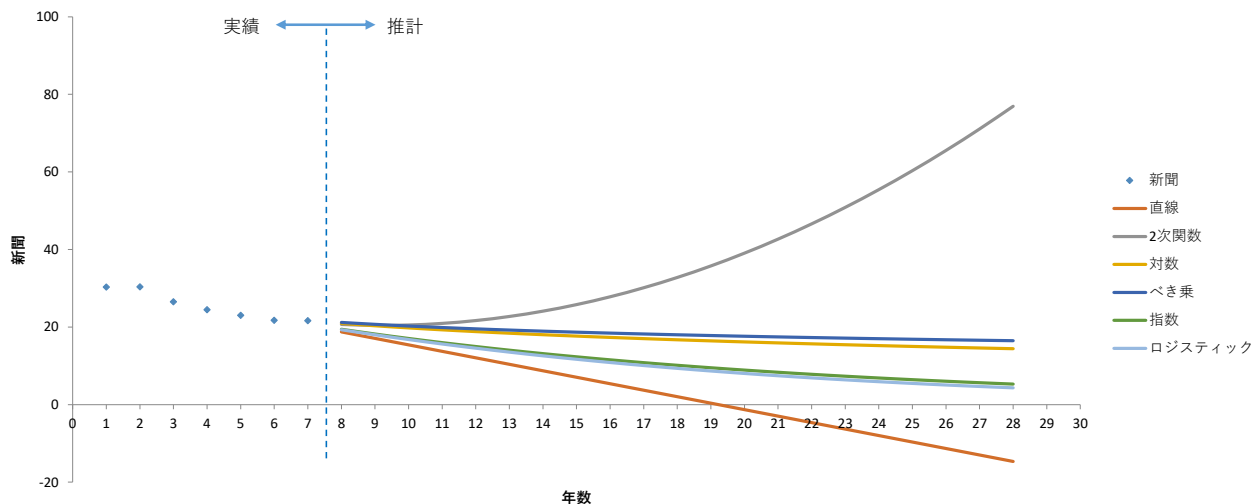


図 17 紙類・衣類の日-新聞 推計

表 21 紙類・衣類の日-新聞 推計

和暦年度	西暦年度	年数	新聞	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	30.31						
H26	2014	2	30.36						
H27	2015	3	26.50						
H28	2016	4	24.43						
H29	2017	5	23.01						
H30	2018	6	21.74						
R1	2019	7	21.63						
R2	2020	8		18.74	20.67	20.94	21.19	19.42	19.29
R3	2021	9		17.07	20.44	20.32	20.69	18.20	18.00
R4	2022	10		15.40	20.53	19.78	20.26	17.05	16.78
R5	2023	11		13.73	20.94	19.28	19.88	15.98	15.63
R6	2024	12		12.06	21.67	18.83	19.53	14.97	14.55
R7	2025	13		10.39	22.72	18.41	19.22	14.03	13.53
R8	2026	14		8.72	24.09	18.02	18.94	13.15	12.58
R9	2027	15		7.05	25.79	17.66	18.68	12.32	11.69
R10	2028	16		5.38	27.80	17.33	18.44	11.54	10.85
R11	2029	17		3.71	30.13	17.01	18.21	10.82	10.07
R12	2030	18		2.04	32.78	16.71	18.00	10.14	9.34
R13	2031	19		0.37	35.76	16.43	17.81	9.50	8.66
R14	2032	20		-1.30	39.05	16.16	17.63	8.90	8.03
R15	2033	21		-2.97	42.66	15.91	17.46	8.34	7.44
R16	2034	22		-4.64	46.60	15.67	17.29	7.81	6.89
R17	2035	23		-6.31	50.85	15.44	17.14	7.32	6.38
R18	2036	24		-7.98	55.43	15.21	16.99	6.86	5.91
R19	2037	25		-9.65	60.32	15.00	16.85	6.43	5.47
R20	2038	26		-11.32	65.53	14.80	16.72	6.02	5.06
R21	2039	27		-12.99	71.07	14.60	16.60	5.64	4.68
R22	2040	28		-14.66	76.93	14.41	16.47	5.29	4.32
決定係数 (R ²)				0.9281	0.9537	0.9071	0.9038	0.9425	0.9393
決定係数 順位				4	1	5	6	2	3

イ 雑誌

- ・決定係数が最も高く、増減も中庸なべき乗式を採用します。

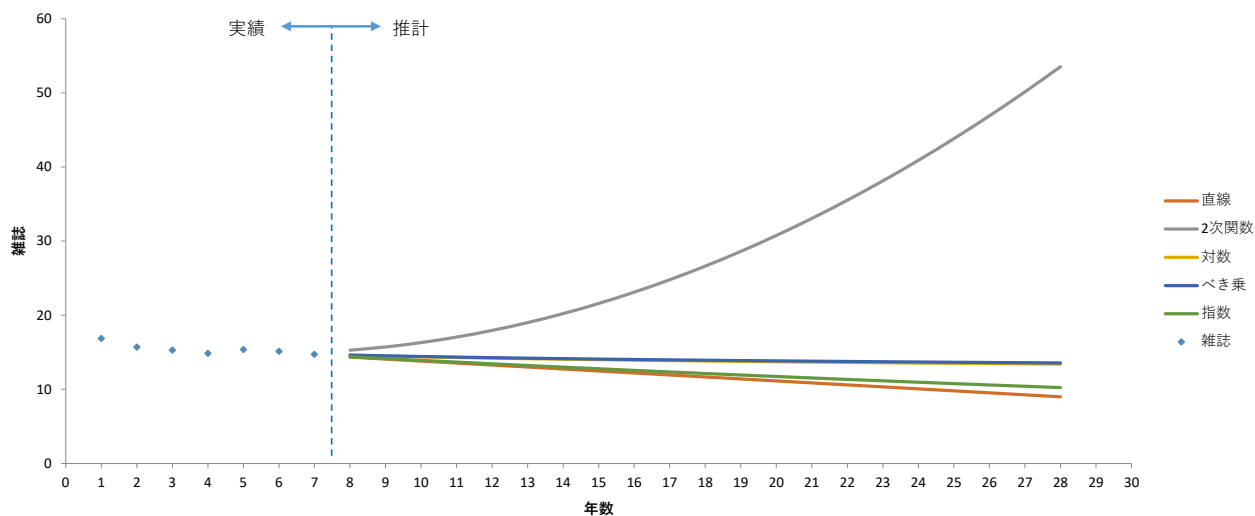


図 18 紙類・衣類の日-雑誌 推計

表 22 紙類・衣類の日-雑誌 推計

和暦年度	西暦年度	年数	雑誌	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	16.87						
H26	2014	2	15.70						
H27	2015	3	15.29						
H28	2016	4	14.87						
H29	2017	5	15.37						
H30	2018	6	15.12						
R1	2019	7	14.73						
R2	2020	8		14.35	15.28	14.60	14.63	14.39	
R3	2021	9		14.08	15.72	14.49	14.52	14.15	
R4	2022	10		13.81	16.31	14.39	14.43	13.91	
R5	2023	11		13.55	17.05	14.30	14.35	13.68	
R6	2024	12		13.28	17.95	14.21	14.27	13.44	
R7	2025	13		13.01	19.01	14.14	14.20	13.22	
R8	2026	14		12.74	20.22	14.07	14.14	12.99	
R9	2027	15		12.48	21.58	14.00	14.08	12.77	
R10	2028	16		12.21	23.11	13.94	14.03	12.56	
R11	2029	17		11.94	24.79	13.88	13.98	12.35	
R12	2030	18		11.67	26.62	13.83	13.93	12.14	
R13	2031	19		11.40	28.61	13.77	13.88	11.93	
R14	2032	20		11.14	30.76	13.73	13.84	11.73	
R15	2033	21		10.87	33.06	13.68	13.80	11.53	
R16	2034	22		10.60	35.51	13.63	13.76	11.34	
R17	2035	23		10.33	38.13	13.59	13.72	11.15	
R18	2036	24		10.06	40.90	13.55	13.69	10.96	
R19	2037	25		9.80	43.82	13.51	13.65	10.77	
R20	2038	26		9.53	46.90	13.48	13.62	10.59	
R21	2039	27		9.26	50.14	13.44	13.59	10.41	
R22	2040	28		8.99	53.53	13.40	13.56	10.24	
決定係数 (R ²)				0.6546	0.8205	0.8343	0.8352	0.6618	
決定係数 順位				5	3	2	1	4	

ウ 段ボール

- ・過去7年間では、平成28年から若干増加傾向にあります。
- ・決定係数が高い、2次関数式、指数式、直線式は増加が大きいため除外し、増減が中庸で、対数式よりも決定係数が高いべき乗式を採用します。

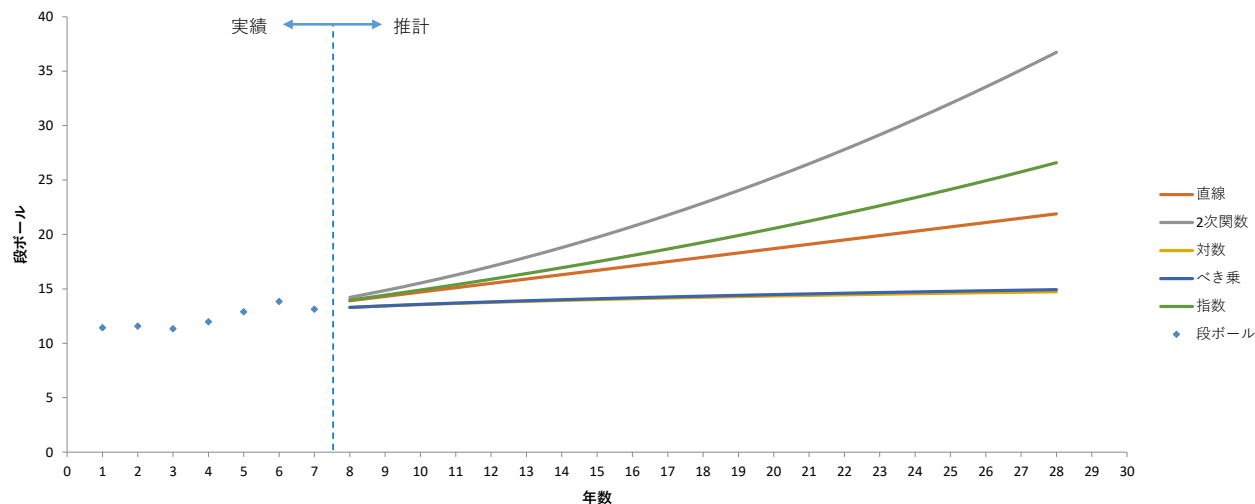


図 19 紙類・衣類の日-段ボール 推計

表 23 紙類・衣類の日-段ボール 推計

和暦年度	西暦年度	年数	段ボール	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	11.42						
H26	2014	2	11.58						
H27	2015	3	11.34						
H28	2016	4	11.97						
H29	2017	5	12.89						
H30	2018	6	13.83						
R1	2019	7	13.13						
R2	2020	8		13.91	14.22	13.30	13.29	13.96	
R3	2021	9		14.31	14.85	13.43	13.44	14.42	
R4	2022	10		14.70	15.53	13.55	13.57	14.89	
R5	2023	11		15.10	16.27	13.66	13.69	15.38	
R6	2024	12		15.50	17.06	13.76	13.80	15.88	
R7	2025	13		15.90	17.90	13.85	13.91	16.40	
R8	2026	14		16.30	18.79	13.94	14.00	16.94	
R9	2027	15		16.70	19.74	14.01	14.09	17.50	
R10	2028	16		17.10	20.73	14.09	14.18	18.07	
R11	2029	17		17.50	21.78	14.16	14.25	18.66	
R12	2030	18		17.90	22.88	14.22	14.33	19.27	
R13	2031	19		18.30	24.03	14.29	14.40	19.90	
R14	2032	20		18.70	25.24	14.34	14.47	20.55	
R15	2033	21		19.10	26.49	14.40	14.54	21.23	
R16	2034	22		19.50	27.80	14.45	14.60	21.92	
R17	2035	23		19.90	29.16	14.50	14.66	22.64	
R18	2036	24		20.29	30.57	14.55	14.72	23.38	
R19	2037	25		20.69	32.03	14.60	14.77	24.14	
R20	2038	26		21.09	33.55	14.64	14.83	24.93	
R21	2039	27		21.49	35.12	14.69	14.88	25.75	
R22	2040	28		21.89	36.74	14.73	14.93	26.59	
決定係数 (R ²)				0.7831	0.7930	0.6471	0.6568	0.7921	
決定係数 順位				3	1	5	4	2	

工 衣類

- ・過去7年間で減少傾向にあるため、増加傾向にある2次関数式は除外します。
- ・2次関数式に次いで、決定係数が高く、増減が中庸な対数式を採用します。

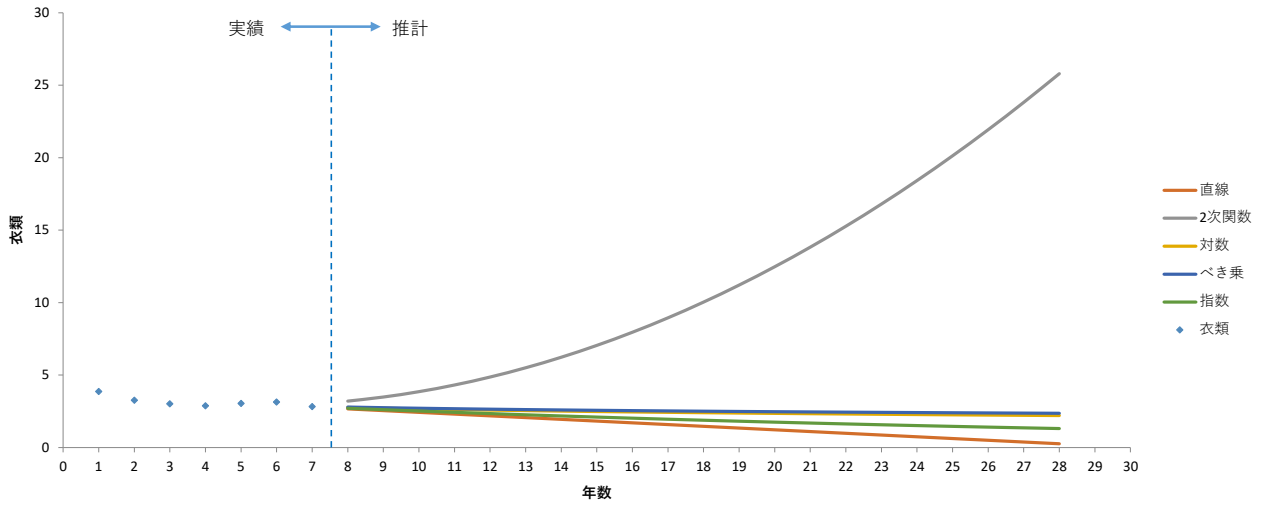


図 20 紙類・衣類の日-衣類 推計

表 24 紙類・衣類の日-衣類 推計

和暦年度	西暦年度	年数	衣類	直線	2次関数	対数	べき乗	指数	ロジスティック
H25	2013	1	3.87						
H26	2014	2	3.26						
H27	2015	3	3.02						
H28	2016	4	2.88						
H29	2017	5	3.04						
H30	2018	6	3.14						
R1	2019	7	2.82						
R2	2020	8		2.67	3.20	2.76	2.79	2.71	
R3	2021	9		2.55	3.48	2.71	2.75	2.61	
R4	2022	10		2.43	3.85	2.66	2.71	2.52	
R5	2023	11		2.30	4.31	2.62	2.68	2.43	
R6	2024	12		2.18	4.86	2.58	2.64	2.34	
R7	2025	13		2.06	5.50	2.55	2.62	2.26	
R8	2026	14		1.94	6.23	2.51	2.59	2.18	
R9	2027	15		1.82	7.05	2.48	2.57	2.10	
R10	2028	16		1.70	7.95	2.45	2.55	2.02	
R11	2029	17		1.58	8.95	2.43	2.52	1.95	
R12	2030	18		1.46	10.03	2.40	2.51	1.88	
R13	2031	19		1.34	11.21	2.38	2.49	1.82	
R14	2032	20		1.22	12.47	2.36	2.47	1.75	
R15	2033	21		1.10	13.82	2.33	2.45	1.69	
R16	2034	22		0.98	15.27	2.31	2.44	1.63	
R17	2035	23		0.86	16.80	2.29	2.43	1.57	
R18	2036	24		0.74	18.42	2.27	2.41	1.51	
R19	2037	25		0.62	20.13	2.26	2.40	1.46	
R20	2038	26		0.50	21.93	2.24	2.39	1.41	
R21	2039	27		0.38	23.82	2.22	2.37	1.36	
R22	2040	28		0.26	25.79	2.21	2.36	1.31	
決定係数 (R ²)				0.5471	0.7729	0.7534	0.7503	0.5553	
決定係数 順位				5	1	2	3	4	

以上